

一般社団法人 人文知応援フォーラム

令和5年度事業報告書

1. 概況

令和5年度は、政府の新型コロナウイルス対策が大きく転換したこともあり、本フォーラムの運営にも多大な影響をもたらしました。

社員総会、理事会をはじめとする各種会議は、それまでWebを併用しながらの開催でしたが、一堂に会して意見交換することにより課題対応への迅速化が図れました。人文知応援大会や会員例会、分科会、探訪プログラムなどの催事についても参加者相互の交流が進み、「人文知」への理解が一層深まるなど、所期の目標である「人文知」が日本の社会の中でより広く生かされるべく幅広く、かつ専門性も追求した事業に取り組みました。組織の強化についても、会員や役員の拡充を行い、今後の活躍が期待されることとなりました。

会員例会では、前年度の応援大会基調講演のメインテーマに沿って落語の会を催し、分科会では、応援大会の課題を深掘し今年度応援大会の基調講演に結び付ける試みを行いました。4回にわたる岡山県を中心とした「探訪プログラム」や、12月開催の「第1回人文知学校」では磯田道史氏による公開講座の開催など、会員のみならず一般の参加者も受け入れ、「人文知」に触れる機会を広く社会へ提供しました。

人間文化研究機構と共同開催の人文知応援大会は、第4回大会のテーマを「総合知を求めて」に設定し、基調講演講師に東京大学名誉教授の村上陽一郎氏を迎え、Web参加を含め121名の参加者を得ることができ、採択された大会宣言では「特定分野の専門家であることに満足せず、隣接分野の知識や古典、芸術などに関心をもち、（中略）全体を俯瞰する知（総合知・人文知）を築いていかなければならない。それが（中略）現在を生き抜く、最良の方法である。」ことを訴えました。

そして、これらの活動を3回発行したニュースレターにとりまとめ、人文知学校の記録集とともに会員をはじめ関係先へ広く広報しました。

こうした活動をとおして起草された「オピニオン部会」の具体化や「次世代リーダーのための人文知研修事業（案）」の実施など次年度への示唆とあわせ社会からの付託も負うこととなった一年でした。

2. 会議開催状況

（1）社員総会

1) 第1回定時社員総会

日 時：令和5年6月30日（金）16：00～17：50

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室

出席者：理 事 6名（内2名はWebシステムによる出席）

監 事 2名（Webシステムによる出席）

決議数：総議決数 14個

出席決議数 14個（会場4名、Web2名、委任状8名）

報告事項：1. 令和4年度事業報告について

議 案：第1号議案 令和4年度収支決算の承認について

（原案通り承認決定）

第2号議案 理事の選任について （原案通り承認決定）

第3号議案 監事の選任について （原案通り承認決定）

第4号議案 （一社）人文知応援フォーラム入退会規程の一部変更について

（原案通り承認決定）

（2）理事会

1) 第1回理事会

日 時：令和5年6月8日（木）10：00～12：00

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室

出席者：理 事 9名（内4名はWeb会議システムによる出席）

監 事 2名（Web会議システムによる出席）

議 案：第1号議案 令和4年度事業報告並びに同収支予算決算の承認について

（原案通り承認決定）

第2号議案 理事候補者の選出について

（原案通り承認決定）

第3号議案 監事候補者の選出について

（原案通り承認決定）

第4号議案 令和5年度第1回定時社員総会の開催について

（案通り承認決定）

第5号議案 特別会員の入会承認について

（原案通り承認決定）

第6号議案 企画会議、第4回人文知応援大会実行委員会の構成員について

(原案通り承認決定)

第7号議案 第4回人文知応援大会の開催について

(原案通り承認決定)

第8号議案 オピニオン部会の設置について

(原案通り承認決定)

2) 第2回理事会

日 時：令和5年6月30日(金) 16:00～17:20

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室

出席者：理 事 17名(内4名はWeb会議システムによる出席)

監 事 2名(Web会議システムによる出席)

議 案：第1号議案 代表理事の選定について

(原案通り承認決定)

第2号議案 正会員3名の入会について

(原案通り承認決定)

第3号議案 顧問の委嘱について

(原案通り承認決定)

第4号議案 (一社)人文知応援フォーラム入退会規程の一部変更について

(原案通り承認決定)

3) 第3回理事会

日 時：令和5年9月28日(木) 15:00～16:50

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室

出席者：理 事 9名(内3名はWeb会議システムによる出席)

監 事 2名(Web会議システムによる出席)

議 案：第1号議案 第4回人文知応援大会について

(原案通り承認決定)

第2号議案 令和5年度会員例会開催について

(原案通り承認決定)

第3号議案 その他

議長から、次の3件のテーマについて問題提起があり、意見交換の後、今後理事懇談会などを通じて継続して議論することとした。

- 1) 倉敷事務局の改編と、東京事務局の機能強化について
- 2) 会勢拡充について
- 3) オピニオン部会について

4) 第4回理事会

日 時：令和6年3月19日（火）13：00～14：40

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室

出席者：理 事 8名（内3名はWeb会議システムによる出席）

監 事 2名（Web会議システムによる出席）

議 案：第1号議案 令和6年度事業計画（案）、同収支予算（案）について
（原案通り承認決定）

第2号議案 その他

- 1) 人文知アワードの feasibility study 着手について議長より提案があり、審議の結果、承認可決
- 2) 大学共同利用機関法人人間文化研究機構と当フォーラムの協力に関する覚書の更新について、議長より提案理由の説明、意見交換の後、原案どおり更新することを承認可決

(3) 企画会議、応援大会実行委員会

1) 第1回企画会議

日 時：令和5年5月26日（金）10：00～11：30

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室（Web会議併用）

出席者数：7名

協議事項：1. 令和4年度事業報告及び同収支決算について

（令和4年度事業報告及び同収支決算について説明）

2. 令和5年度第1回理事会及び第1回定時社員総会の開催について

（第1回理事会：令和5年6月8日（木）開催）

（第1回定時社員総会：令和5年6月30日（金）開催）

3. 第4回人文知応援大会の開催について

（開催日程、基調講演講師、プログラムについて協議）

4. オピニオン部会の設置について

5. その他

- ・理事・監事候補者の選出について
- ・特別会員について
- ・企画会議メンバー、人文知応援大会実行委員会の構成員他について

2) 第2回企画会議

日 時：令和5年8月31日（木）15：30～17：30

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 機構室（Web 会議併用）

出席者数：7名

協議事項：1. 令和5年度会員例会開催について

2. 第4回人文知応援大会（案）について

（第4回人文知応援大会の日程、会場、開催形態、テーマ、基調講演講師などについて協議）

3) 第3回企画会議・応援大会実行委員会

日 時：令和6年2月29日（木）14：00～15：00

場 所：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室（Web 会議併用）

出席者数：7名

協議事項：1. 令和6年度事業計画（案）及び同収支予算（案）について

2. 第4回人文知応援大会について

3. その他

（4）オピニオン部会

1) キックオフミーティング

日 時：令和5年7月18日（火）12：00～15：00

会 場：アークヒルズクラブ アネックス（東京都港区赤坂一丁目12-32）

出席者：小島明氏、木部機構長、近藤代表理事、大原代表理事、黒須事務局長

ゲスト：田中弥生氏

2) 第1回オピニオン部会

日 時：令和5年12月8日（金）14：00～16：00

会 場：学士会館

出席者：小島明氏、木部機構長、近藤代表理事、大原代表理事、黒須事務局長

(欠席者：ロバート・キャンベル氏)

(5) その他会議等

理事懇談会・理事懇親会

日 時：令和5年12月8日(金) 17:00～20:00

場 所：アークヒルズクラブ(東京都港区赤坂一丁目12-32)

出席者数：6名

懇談事項：1. 第4回人文知応援大会について

2. フォーラム活動の充実と人文知応援活動の将来像について

3. 教育・普及活動について

4. オピニオン部会の企画について

5. 「人文知のプロムナード」の継続刊行について

3. 事業活動

(1) 第4回人文知応援大会

1) 概 要

日 時：令和6年3月10日(日) 13:30～17:00

会 場：一橋講堂(東京都千代田区)

主 催：一般社団法人人文知応援フォーラム

大学共同利用機関法人人間文化研究機構

参加者数：121名(内会場58名、Web63名)

テ ー マ：「総合知を求めて」

2) 内 容

総合司会：渡辺美代子(人文知応援フォーラム理事)

挨拶・趣旨説明：大原謙一郎(人文知応援フォーラム代表理事)

挨 拶：木部暢子(人間文化研究機構機構長)

基調講演：テーマ 「総合知を求めて」

講 師 村上陽一郎氏(東京大学・国際基督教大学名誉教授)

パネル討論：ファシリテーター 村上陽一郎(東京大学・国際基督教大学名誉教授)

パネリスト 岩井睦雄(日本たばこ産業株式会社取締役会長)

小林傳司(大阪大学名誉教授)

藤尾慎一郎(国立歴史民俗博物館教授)

藤垣裕子(東京大学大学院総合文化研究科教授)

閉会挨拶：近藤誠一（元文化庁長官・人文知応援フォーラム代表理事・
人文知応援大会実行委員長）

3) 大会宣言

学問は、元来真理を極めるための知的作業としてスタートした。

しかし文明の発達に伴い、社会は、学問の一部である科学に政治・経済的目的達成のテクノロジーの提供を期待するようになり、科学は特定の現実的目的の達成手段と捉えられるようになった。

同時に起こった学問(とりわけ自然科学分野)の細分化により、社会は各分野の専門知を目前の目的達成への貢献で評価するようになり、大学教育でも一般教養の軽視、専門領域の知識習得の早期化が進んだ。

しかし、専門知は固定された視座を与えるが、それ単独では複雑さを増す現代の問題を 解決することできない。多くの分野の知を統合した総合知が必要である。

ここで想起すべきは、中世ヨーロッパが、所与の実務的目的を達成する科学を「奴隸的技能」と位置付け、それに囚われずに「自由に」真理を探究して人間のあるべき姿を追い求める幅広い学問体系として「リベラルアーツ」という概念を確立したことである。

もちろん、西欧で発達したリベラルアーツと日本における「教養」は、成り立ちもコンセプトも異なる。しかし、効率性や数値主義を評価基準にすべきだとする「思い込み」により自らを拘束する流れを脱し、知的活動の本来の姿である「人間とは何か、どう生きるべきか」という問への自由な好奇心を取り戻すことは、時代の違いや、洋の東西を問わず必要である。

そのためには、社会として、特定分野の専門家であることに満足せず、隣接分野の知識や古典、芸術などに関心をもち、それが幾重にも重なるような仕組みを構築して全体を俯瞰する知（総合知・人文知）を築いていかねばならない。それが、価値観やライフスタイルの激変により未来を見通せなくなってしまった現在を生き抜く、最良の方法である。

4) メディア懇談会

第1回メディア懇談会

日 時：令和6年2月29日（木）16：30～17：30

会 場：大学共同利用機関法人人間文化研究機構 会議室

参加者：メディア関係者5名

(2) 会員例会

1) 10月度会員例会

日 時：令和5年10月21日（土）18：00～21：00

会 場：学士会館（東京都千代田区・Web との併用）

参加者：30名（会場24名、オンライン6名）

内 容 会務報告：「人文知応援フォーラムの活動紹介」大原謙一郎

落語「中村仲蔵」三遊亭金朝

会終了後、交流会を開催

(3) 分科会

1) 第1回分科会

日 時：令和5年4月27日（木）18：30～20：30（分科会）

20：30～22：00（交流会）

会 場：学士会館（東京都千代田区・Web との併用）

参加者：14名（会場 13名、 Web 1名）

内 容：テーマ：第3回応援大会のリフレクション

世代別に4グループに分かれ、第3回応援大会で感じたことについて自由に議論を行った。その後世代別の議論の内容を踏まえて全体での自由討論を行った。世代によって関心事、議論へのアプローチなどが異なり、またお互いの意見をしっかり聞くことができ、世代ごとのグループ分けを行った試みの成果があった。

*分科会終了後、交流会

2) 第2回分科会

日 時：令和6年1月17日（水）18：30～20：30（分科会）

20：30～22：00（交流会）

会 場：学士会館（東京都千代田区・Web との併用）

参加者：10名（会場6名、オンライン4名）

内 容：第3回応援大会のテーマ「人類はどこで間違ったか」から発展させて、

第4回応援大会のテーマ「総合知とは何か」につなげるため、課題図書『専門家とは誰か』（村上陽一郎著）について議論を行った。

*例会終了後、交流会開催

(4) 人文知探訪プログラム

1) 第1回倉敷探訪プログラム

日 時：令和5年4月15日（土）

訪問先：倉敷民藝館

参加者：22名

内 容：林原美術館館長の谷一尚氏の講演「倉敷と民藝」を聴講の後、倉敷民藝館見学

2) 第2回倉敷探訪プログラム

日 時：令和5年6月10日（土）9時～16時

訪問先：吉備路探訪

参加者：24名

内 容：こうもり塚古墳、造山古墳、鬼城山（古代山城・鬼ノ城）など古代吉備の国探訪

3) 第3回倉敷探訪プログラム

日 時：令和5年10月9日（月／祝）9時～16時

訪問先：倉敷市児島、玉島地区

参加者：27名

内 容：江戸時代中期から明治まで活躍した北前船の寄港地として栄えた倉敷市玉島・児島の町並みと廻船問屋跡、塩田王旧宅・野崎邸探訪

4) 第4回倉敷探訪プログラム

日 時：令和5年12月9日（土）9時～16時

訪問先：岡山県瀬戸内市

参加者：27名

内 容：備前長船・刀剣美術館を訪問、国宝「太刀 無銘 一文字（山鳥毛）」他鑑賞、日本刀ができるまでの過程や、長船の歴史を学習

(5) 人文知学校

1) 第1回人文知学校

日 時：令和5年12月2日（土）14：00～15：30

会 場：倉敷公民館ホール

参加者：254名（公開講座）

料 金：1, 0 0 0 円

内 容：歴史学者・磯田道史氏から、「江戸の人文知のサロンは豊かな文化を創った！」をテーマに公開講座を開催、講演終了後、会員対象に江戸時代後期、文人墨客間の交流を通して豊かな文化が形成された歴史について学習

(6) 広報活動

1) ニュースレター

【第4号】

発 行：令和5年4月

概 要：A4判8ページ、カラー印刷、1, 0 0 0 部発行

内 容：巻頭エッセイ（近藤誠一「人文知は五感の総動員で」）

人文知の本棚（草野満代 林洋子著『藤田嗣治 手しごとの家』
（猪木武徳 チェーホフ著『退屈な話』『ワーニャ
おじさん』）

New TOPICS（柴野京子 「NPO の本の学校」）

人文知 NOW（吉田丈人「災害対応の伝統知・地域知」）

フォーラムレポート（令和4年度会員例会）

（第3回人文知応援大会）

（令和4年度第2回分科会）

（人文知探訪プログラム in 岡山）

【第5号】

発 行：令和5年9月

概 要：A4判8ページ、カラー印刷、1, 0 0 0 部発行

内 容：巻頭エッセイ（木部暢子「人文学にとってのオープンサイエンス」）

New TOPICS（高田彩「チルドレンズ・アートミュージアムしおがま」）

人文知の本棚（福岡伸一 坂本龍一・福岡伸一共著『音楽と生命』

（和久井康明 猪木武徳『地霊をたずねるーもう一つ
の日本近代史』）

人文知 NOW（フレデリック・クレインズ『戦国文化史と時代考証』）

フォーラムレポート（令和5年度第1回分科会）

（人文知探訪プログラム in 岡山）

（令和5年度理事会、社員総会）

会員の声

【第6号】

発行：令和6年3月

概要：A4判8ページ、カラー印刷、1,000部発行

内容：巻頭エッセイ（松元崇「古典を読むということ」）

New TOPICS（田中幹夫「南砺市棟方志功まちづくり協議会」）

人文知の本棚（村田守弘 大野拓司著『マゼラン船団世界一周500

年目の真実 大航海時代とアジア』）

（森佳子 杉本博司著『江之浦奇譚』）

人文知NOW（中西智子『紫式部のウインク』）

フォーラムレポート（令和5年度会員例会）

（人文知探訪プログラム in 岡山）

（第1回人文知学校）

会員の声

2) ホームページの管理、運用

3) 各種 SNS による情報発信

ツイッター：@jinbunchi_forum

インスタグラム：jinbunchi.forum

フェイスブック：jinbunchi.forum

4) 記録集等の編纂

「第1回人文知学校記録集」制作

4. 組織の概要

（1）会員

1) 正会員：18名

2) 賛助会員：個人 142名（169口）学生賛助会員（7名）

団体 16件（37口）

3) 特別会員：5名

(2) 役員（敬称略・五十音順）

1) 代表理事

大 原 謙一郎（会 長） 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館名誉館長
近 藤 誠 一（理事長） 近藤文化・外交研究所代表

2) 理 事

大 林 剛 郎 株式会社大林組 取締役会長 兼 取締役会議長
奥 正 之 株式会社三井住友フィナンシャルグループ名誉顧問
木 部 暢 子 大学共同利用機関法人人間文化研究機構機構長
草 野 満 代 フリーアナウンサー
高 階 秀 爾 東京大学名誉教授、日本藝術院長
中 島 さち子 株式会社 steAm CEO・一般社団法人 steAm BAND 代表理事
長谷山 彰 国立大学法人北海道国立大学機構理事長
福 岡 伸 一 青山学院大学教授、米国ロックフェラー大学客員研究者
松 元 崇 国家公務員共済組合連合会理事長
虫 明 優 株式会社三楽代表取締役社長
和久井 康 明 株式会社クラレ元会長
渡 辺 美代子 学校法人日本大学常務理事

3) 監 事

鴨 井 省 三 株式会社三楽監査役
前 川 晶 弁護士

4) 顧 問

加 藤 丈 夫 前国立公文書館館長（元富士電機会長）
高 梨 誠三郎 高梨学術奨励基金理事長
平 川 南 国立歴史民俗博物館名誉教授

(3) その他

1) 企画会議（事務局を除く）

大 原 謙一郎 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館名誉館長
近 藤 誠 一 近藤文化・外交研究所代表
木 部 暢 子 大学共同利用機関法人人間文化研究機構機構長
若 尾 政 希 人間文化研究機構理事

2) 人文知応援大会実行委員会（事務局を除く）

実行委員長 近 藤 誠 一 人文知応援フォーラム代表理事

副実行委員長 若 尾 政 希 人間文化研究機構理事

以 上